令和7年度　小平市立小平第十五学校　学校評価報告書

学校教育目標　心身共に健康で心豊かな人間の育成を期して、次の目標を設定する。
◎考える子　○思いやりのある子　○たくましい子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　・しっかり学び、元気と笑顔あふれる十五小　・感謝し、楽しみ、味わい、共に分かち合う十五小
【目指す児童・生徒像】 ①学ぶ喜びや楽しさを実感し、意欲的に学習の課題や学習する方法をつかみ、最後まで追求し、解決できる子　②気持ちの良い挨拶や返事をし、すすんで人とかかわることができる子
【目指す教員像】　・こどもとこどもの成長を面白がり、共に味わい、分かち合う学校　・チームとして結束し、教職員同士の力量を知り磨き合う学校

前年度までの学校経営上の成果と課題

○特色ある教育活動として、対話を通じて学力向上部、特別活動部、食育推進部、更に地域教材を連携させたことで、児童の学力の定着や運動への意欲等が向上し、自ら考え、対話を通して学びを深める姿が見られるようになった。
○朝学習の年間計画を示し、算数や朝読書の推進を図る。また、登下校時の歩行の仕方には課題が残ったため、生活指導部で作成した「道路の歩き方」の動画を計画的に活用し、一斉指導と併せて継続的に指導していく。

	具体的方策	第1回評価 取組指標	第1回評価 成果指標	指標に基づく成果・課題・対策	第2回評価 取組指標	第2回評価 成果指標	学校関係者評価	指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策
特色ある教育活動	自らの考えを発表したり交流したりする対話活動を組み込んだ授業実践を行う。児童アンケートによる実態調査を実施し、数値検証による改善策を実践に加える。	3.5	3	・東京ベーシックドリルの診断テストを活用し、分析したデータをもとに、各学年の課題を洗い出し朝学習での取組につなげる。 ・タブレット型端末の活用を充実させ、みんなが発表できる場を確保する。	3.7	3.5	・実体験をもとにタブレット型端末を活用してプレゼン発表する活動に取り組めていてよかった。 ・日ごろの生活経験不足から数の概念などの理解が弱いのではないか。 ・地元野菜を活用した給食が提供できていて、子供たちからの評判が良く。家で食べないものも学校で食べるという様子が見られるようなので、農協職員にも伝えたい。	○年3回の東京ベーシックドリルの診断テストで児童の課題を把握し、朝学習などで取り組んでいく。 ○ICT機器を効果的に活用することで、それぞれの児童がより発表できる場を工夫していく。
	全学級の体育の授業、導入、または準備運動の場面で、『鬼遊び』を実施し、様々な運動面での体力向上を目指す。また、年度中に伸び率を検証し、今後の指導に反映する。	3.2	3.2	・全学級、「鬼遊び」を体育の授業で活用し楽しく体を動かすことを行っている。休み時間にも自ら鬼ごっこを楽しむ姿も多い。 ・体力テストの結果を今後検証し、課題に対する対策を考えていく。	3.5	3.5		○体育では「鬼遊び」を帯で取り入れることで、それを楽しみにする児童が増え、休み時間も鬼ごっこや体を動かすことを楽しむ児童が増えてきた。今後も体育での取り組みを続け、さまざまな体の動かし方を体験させていく。
	給食放送や毎日の給食だよりを実施し、季節の料理や行事食、栄養素の大切さなどの理解推進を行う。小平野菜や旬の野菜を食す良さを学び、食の大切さを理解する。	3.7	3.7	・給食の時間の食育の放送や毎日の栄養士からのメッセージ（クイズ）は児童の関心が高く、楽しみながら栄養や食品に対する知識を身に付いけている。 ・生活科や総合的な学習の時間等を通し、学童農園や地域の農家の方の協力のもと、地域の農産物について触れたり考えたりする時間をとっている。	3.9	3.9		○毎日の給食で、メッセージを読み上げたりクイズをしたりすることで、食への関心が高まり、児童の間でも食の話題が広がるようになってきた。引き続き行っていきたい。
健全育成	登校時の挨拶、声かけ、担任の教室出迎えを行い、教師自身が手本となり実践する。	3.6	3.5	・代表委員会やボランティアの児童があいさつ運動に積極的に参加し、登校する児童に元気なあいさつをしている。 ・教師自ら日常的にあいさつし合い、児童にも声をかけている。 ・あいさつの声が出ない児童がいるので、会釈などからでも気持ちを伝える方法を指導していく。	3.6	3.5	・登下校に走って登校して転ぶ児童や、駐車場の中を横切る児童がいる。 ・スクールゾーンの見守りで、大人の自転車や車が危ないと感じることがある。 ・いじめのニュースが多く、心配である。	○見守りボランティアを有効に活用し、気付いたことを学校へつなげることができるようにお願いしていくことで、安全な対応が早くとれるようにする。
	定期的ないじめ調査と生活指導夕会や学年会などで情報交換を確実に行い、一致した指導を行う。人権教育計画をもとにを教科の特性に合わせた人権教育を実施する。また、学校での教職員の取り組みを学校通信やHP等で周知し、地域や家庭の協力を仰ぐ。	3.8	4	・学年会、生活夕会等で、情報共有を図り、全職員で把握できるようにする。 ・校内研のテーマが「人権」になったこともあり、教職員の中で人権に対する意識が高まっている。今後さらに教科指導の中での人権教育について、学校教育全体で人権教育に取り組めるようにしていく。	3.8	3.9		○継続していじめ防止研修を毎学期1回行っている。さらに週1回の生活指導夕会を効果的に活用し、いじめにつながる兆候を早期に発見する。情報交換を行い、全校で見ていく体制をさらに整えていく。 ○人権教育の観点から、児童の「いじめ」に対する意識も高めていく。
デジタル推進	各学級での活用実践を取りまとめ、実践事例を報告すると共に、研修会を行う。デジタル教科書の積極的な活用を推進する。	2.9	3	・学年会、校内OJTなどを生かし、デジタルを活用した授業について、教職員全体の活用度を上げていく。 ・OJTで授業を参観し合う際に、積極的にタブレット型端末を活用した授業を行うことで互いに共有できるようにする。	3.5	3.5	・ノートに書くことが減っているように思い、書く力がつかないのではと不安がある。ノートとデジタル両方を平行して行ってほしい。	○発達段階や学習内容によって、ノートやデジタルを使い分けている。どちらも大切でつけていきたい力であるので、さらに効果的にデジタルを使って学習活動をさせていく。内容や自分にあった学習手段を選べようになることも視野に入れる。
	情報課から提案されている学年別の目標を常に意識し、日々の教育活動の中に適宜取り入れる。	3	3.2	・年間計画を確認し、確実な実践を準備する。 ・日頃からICTの活用を授業の中で実践できる意識をもち、活用事例を積極的に実践していく。	3.3	3.4		○学年ごとの目標に照らし合わせ、身に付けられるように指導していく。特に高学年でのデータの整理の際の効果的なICTの活用をしっかりと指導していく。
開かれた学校づくり	生活、社会、理科、総合的な学習の時間、各教科の学習に地域の人材を活用する。（社会人ボランティア登録カードの活用）（学童農園、図書ボランティア、地域教材、安全、防犯等）	3.4	3.5	・地域人材や地域の素材を生かした授業展開をさらに行っていくために、CSや保護者との連携を行い、教員が意識して地域とのつながりをつくっていく。	3.4	3.4	・学童農園での学習を行ってから、畑のいたずらなどが減ったという声が出ている。大切に作られていることを知ったり、命をいただいていることを実感することは大切である。 ・メール配信が定着してきている。	○小平の地元の産業や人々とのつながりを大切にした学習を継続して行うことがとても大切である。そのため、年間行事や年間指導計画を整理し、限られた時間の中で効果的に実施できるように工夫していく。
	学校通信、ホームページ等を通じて学校での教育活動を伝える。また、保護者会を工夫し、情報を発信する。	3.9	3.6	・HPにて日頃の活動の様子を公開する。 ・配布資料、文書のデジタル化を推進する。 ・デジタル配信の作業分担や役割を明確にする。	3.6	3.5		○スクールメールが新しくなり、出欠席の情報を早く便利に得ることができるようになった。 ○学校からのメールや学校ホームページで情報をより分かりやすく伝えていく工夫をする。
業務が依然・働き方改革	教育効果を検討し、改革改善していく。（SSS等の制度活用、職員会議の効率化、ペーパーレスの取り組み、次年度の行事精選等）	3.2	3.2	・次年度や次の機会により効果的な教育活動や働き方改革ができるように、こまめに反省をとり、できるだけ早く改善していく。 ・教職員の更なる意識改革を推進する。	3.2	3.3	・会議等の精選を行い効率的に行うことで、授業準備や児童と向き合う時間を確保してほしい。	○留守番電話やSSS制度の活用に加え、教員の勤務時間や電話対応の時間をなどを周知していくことで、教員が授業準備に向き合う時間を確保していく。